

別紙1-1

## 論文審査の結果の要旨および担当者

|      |   |   |   |   |
|------|---|---|---|---|
| 報告番号 | ※ | 甲 | 第 | 号 |
|------|---|---|---|---|

氏 名 細井 敬泰

論 文 題 目

The Impact of Circular Stapler Size on the Incidence of Cervical Anastomotic Stricture After Esophagectomy

(Circular stapler 径が食道切除後の吻合部狭窄に与える影響)

論文審査担当者


名古屋大学教授

主 査 委員

小寺 泰弘 


名古屋大学教授

委員

蔭 威 光弘 

名古屋大学教授

委員

内田 宏夫 

名古屋大学教授

指導教授

江畑 智希 

## 論文審査の結果の要旨

2011年4月から2016年3月までに胸部食道癌に対して食道切除後に circular stapler (CS) を用いた胸骨後経路・頸部食道胃管吻合が施行された 236 例を対象として、CS 径と吻合部狭窄の発生率との関連を検討した。CS 径により small-sized (25mm) CS group (SG) : 116 例と large-sized (28 または 29mm) CS group (LG) : 120 例の 2 群に分けて、吻合部狭窄の発生率を比較すると LG は SG より有意に低かった (SG :53% vs LG :23%,  $p < 0.001$ )。さらに、多変量解析を用いて吻合部狭窄のリスク因子を検討すると small-sized CS は独立した吻合部狭窄のリスク因子であった (OR 3.42, 95%CI =1.82-6.62;  $p < 0.001$ )。この結果より、食道切除後の CS を用いた頸部食道胃管吻合において、吻合部狭窄を予防するために large-sized CS を使用すべきである。





本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 本研究では胸骨後経路・頸部食道胃管吻合に限定して検討を行ったが、胃管挙上経路（胸骨後、後縦隔、胸壁前）や吻合部位（頸部、胸腔内）が吻合部狭窄の発生率に影響を及ぼすと報告されている。また、胃管血流は吻合部形成に大きく影響を与える因子であり、今後の検討ではその正確な評価と均一化が必要である。
2. 吻合部狭窄は吻合部組織の治癒過程における癒着化が原因とされており、ステロイドの投与やプロトンポンプ阻害薬 (Proton Pump Inhibitor : PPI) の投与が有効と報告されている。また、非ステロイド性抗炎症薬 (Non-Steroidal Anti-Inflammatory Drug : NSAIDs) の投与が、吻合部組織での創傷治癒を阻害し吻合部狭窄を誘発すると報告されており、投与を控えるべきかもしれない。
3. large-sized CS を使用することで、吻合部狭窄の発生率は減少したが LG でも 23% に認め、満足できる結果ではなかった。また、わずかではあるが食道径が小さく large-sized CS を使用できない症例も認めた。これらの症例では、吻合部狭窄をきたすリスクが約 3 倍となり、CS 以外の吻合法を検討する必要がある。本研究の結果を踏まえて、食道径に依存せず大きな吻合径が確保可能とされる吻合法 (Collard 変法) について、吻合部狭窄の発生率を primary endpoint として CS と比較する臨床試験を実施中である。

本研究は、食道切除後の CS を用いた頸部食道胃管吻合において、吻合部狭窄を予防するための重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

## 試験の結果の要旨および担当者

|   |   |   |   |      |
|---|---|---|---|------|
| 報告番号  | ※ 甲 第   | 号 | 氏 名   | 細井敬泰 |
| 試験担当者   | 主査、小寺泰弘                |   | 副査 <sub>1</sub> 、藤城光弘  |      |
|   | 副査 <sub>2</sub> 、内田広夫  |   | 指導教授、江畑智希              |      |
| (試験の結果の要旨)  |   |   |   |      |
| <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本研究で検討されていない吻合部狭窄の発生に影響する因子について</li> <li>2. 大きな径のcircular stapler使用以外の吻合部狭窄を予防する方法について</li> <li>3. 本研究の結果を踏まえて、今後の展望について</li> </ol> <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、腫瘍外科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p> |   |   |   |      |